

## 奥多摩・本仁田山 (1225m)

AKA

©2019年1月10日(木) 曇り 単独

いっばしの「やまや」を気取ってきたが、住居の関係からどうしても上信越の山々に足が向いてしまい、奥多摩はからっきし門外漢、自ら好んで出かける事はなかった。考えが改まったのは、奥多摩山岳救助隊員・金 邦夫氏の「すぐそこにある遭難事故」(東京新聞社・2015)を読んでからの事になる。<100 転落すれば剣でも奥多摩でも結果は同じ><侮るな・東京の山>等頷けるもの多々ありチョッと気になり、本仁田山に登ってみる事にした。

折しも平成最後の年の登り初め、青梅線・鳩ノ巣駅 8:35 出発する。はっきりしない曇天で底冷えの中、棚沢集落を抜ける。コンクリート舗装路の傾斜は急で、ここにお住まいの皆さんは大変だなあと山里の人家を前に余計な心配をしてしまうのだった。集落の突き当りで指導標に導かれ左折し山道に入る。山腹をからんで薄暗い杉林の樹林帯をしばらく登ると1時間弱で小祠のある大根ノ山ノ神に着き一息入れた。積雪ゼロ、カラッ カラッだ。

右手の大ダワ、川乗山方面への道と分かれ、杉林の中単調な登りが続く。見晴らしもなくここは我慢するのみと黙々と登り詰めると雑木に<杉の尾根・殿上山 920m>と小さな標識がぶら下っていた。

そこから先は前方が開けた尾根道となり見通しも効き、いかにも山らしくなり少し元気が出てくる。急坂を登りきり小ピークに立つとお握り状の三角形の力石にマジックで<コブタカ山>と書いてあり、本仁田山はもう目の前だ。



(本仁田山頂上)

頂上へはそのまま稜線を直登出来そうだったが、登山道は山腹を右からトラバースするように付けられていて、裏から回り込むような感じで広い山頂に立った。

歩き始めから丁度3時間、どの案内書でも2時間半位とあるので、かなり遅れているが、これがまあ現実だろう。ベンチが2つ設置され、少し霞んでいるが富士山も見えるのんびりするには静かでいい山頂だ。



(大休場・右折標識)

最近に登る人も少ないようで、今日は誰も出会わなかった。ほぼ無風だが底冷え厳しく、早々に下山の途につき奥多摩駅をめざしたが、キツイ傾斜に青くなる。なんでも<奥多摩三大急登>の一つだそうで半端でない急坂に<奥多摩侮るなかれ>を実感した。

雑木の中の「大休場」には安寺沢への標識の先にトラロープが張ってあり通行止めになっていた。

金邦夫氏の著書では本仁田山での遭難事故が数件報告されており、ここもロープがなければそのまま直進し道迷いになりそうな個所、標識に従い右折し駅まで駆け下った。11月の川乗山に続いての奥多摩の山だったが、これからも折をみて訪れてみようと思う。

<コースタイム>

8：35 鳩ノ巣駅発、9：30 大根ノ山ノ神、11：35 本仁田山 11：50、12：35 大休場、13：40 奥多摩駅着

(了)